

令和6年度前期昇段審査会の結果概要について

1 段位別受審者及び合格者数

	初段	弐段	参段	計
受審者	39	7	1	47
合格者	24	5	0	29

2 講評要旨（菊池 審査員）

- 基本では、視線を下に向けず、常に前(相手)を見ること。
- 踵を上げず、足裏を床に密着し、真っすぐ構えると体幹がしっかりする。
- 上手な選手は、腰の位置が低く、下半身がどっしりしているので、動作が安定し、強い技が出る。
- 組手は、気合と同時に、相手の道着(目標)の寸前で技を極めること。
- 上の段位をめざすためには、道場(支部)の先生に悪い所を指摘してもらい、直していくこと。

3 段位別受審者の形の選択状況

(1) 初段

抜塞大	観空大	燕飛	慈恩	計
31	1	—	7	39
79%	3%	—	18%	100%

(2) 弐段

選定形

抜塞大	燕飛	計
3	4	7
43%	57%	100%

得意形

慈恩	五十四歩小	計
6	1	7
86%	14%	100%

(3) 参段

選定形

抜塞大	燕飛	計
1	—	1
100%	—	100%

得意形

慈恩
1
100%